

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	47	大学等名	小樽商科大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・「No.1 グローカル大学宣言」に基づき、「グローバル人材育成」の取組が行われ、着実に教育改革が進められている。とりわけ、ギャップイヤー制度導入については、海外留学制度として組み入れる新たなコース設置の原案が作成されていること、長期学外学修の新規開発、学外資源を活用したインターンシップの実施等が順調に進められていることは評価できる。
- ・ギャップイヤー導入に向けた四学期制導入のため、学事暦改革の検討が行われ、今年度より国際交流科目について運用を開始している。長期学外研修として設置している科目については、一年次生から履修可能にするなど、多くの学生に機会が提供されているほか、その他のプログラムについても、配当年次を変更するなどの工夫が行われている。体験活動期間もプログラムごとに効果的な期間を設定して実施されており、学生が自発的に学外学修に参加できるような支援（環境の整備、活動資金、指導等）が適切に行われていることから評価できる。
- ・学内の実施体制については、事務局の複数課による組織横断的な体制で業務を進め、縦割りを排除していることは評価できる。また、教職協働の体制を構築し、日常的な打合せなどにより情報共有を行い、進捗状況を把握している。自己評価及び外部評価も適切に実施されていることも評価できる。
- ・専任コーディネーターの下、プログラムは円滑に実施されている。NPO 法人と連携した長期インターンシップの実施や、道内の企業や複数の大学が連携して実施する長期実践型のインターンシップ事業のモデルを構築するなど、プログラムの新規開発に努めていることは評価できる。海外の大学との交流プログラムは学生からの評価も高く、今後の展開が期待される。
- ・「グローバルな視野を持って地域社会の諸問題を解決できる能力を持った人材を育成する」という本大学のプログラムを北海道全体に波及させるという目標の下、北海道未来チャレンジ基金「学生留学コース」事業を運営するなどの成果をあげている。また、スーパーグローバルハイスクールへの指導を通して、大学教育改革の成果を高校の教育現場に波及させていることから評価できる。